

JAL に A350 XWB 初号機を引き渡し



仏トゥールーズで JAL の A350 初号機を納入

エアバスは仏トゥールーズで日本航空（JAL）に A350 XWB の初号機を引き渡しました。この機体は JAL 向けに製造される初のエアバス機で、6 月 13 日に現地で引き渡しセレモニーが開催され、JAL の植木義晴代表取締役会長とエアバスのクリスチャン・シェラー最高営業責任者（CCO）が出席しました（4 ページにセレモニーの写真特集）。

JAL は A350 XWB を合計で 31 機（A350-900 が 18 機、A350-1000 が 13 機）発注しています。A350-900 は国内の基幹路線に就航し、今後引き渡される、より大型の A350-1000 は国際線に就航する予定です。今回引き渡される初号機は 9 月 1

日に羽田－福岡線に就航します。

JAL の A350-900 は、ファーストクラス 12 席、クラス J（プレミアム・エコノミー）94 席、普通席 263 席からなる 3 クラスの構成で、合計 369 席を装備しています。

トゥールーズから日本へのフェリー・フライトは、従来のケロシン燃料とバイオジェット燃料を混合した燃料で飛行しました。エアバスは JAL と共に航空業界の二酸化炭素排出削減に貢献します。

A350 XWB は短距離から超長距離路線（15,000 km）まですべてのマーケットに対応する運航柔軟性と効率性を備えた旅客機です。最新の空力設計、炭素繊維製の胴体および主翼、燃費効率の高いロールス・ロイス社製エンジンを採用。これらの最先端技術のおかげで、燃費と排出量を 25% 削減しています。また A350 XWB はエアバスの革新的客室「Airspace by Airbus」による快適な居住空間を乗客にも乗員にも提供します。

2019 年 5 月末時点で A350 XWB は世界中の 51 社から 893 機の受注を獲得しています。



レッドの A350 ロゴが描かれた特別塗装の初号機

contents

[JAL に A350 XWB 初号機を引き渡し](#)[A321XLR をローンチ](#)[パリ航空ショーで 363 機の受注とコミットメントを獲得](#)[総引き渡し数 12,000 機に到達](#)[ANA の A380 が成田 - ホノルル線に就航](#)[50 周年を記念しキャンペーン開始](#)[A220 ファミリーの性能向上へ](#)[JAL の A350 引き渡しセレモニーのハイライト](#)

A321XLR をローンチ



単通路型最長の航続距離を持つ A321XLR

エアバスは航続距離を延長した A321XLR をローンチしました。A321XLR はベストセラー機 A321neo ファミリーの最新派生型として市場の要望に対応します。より長い航続距離を持ち、旧世代機と比較して座席当たりの燃費を 30% 抑え、航空会社により高い価値をもたらします。運航開始は 2023 年の予定です。高い燃費性能を備えながら、長距離型 A321LR よりも 15% 長い、最大 4,700 海里の超長

距離の航続距離を提供します。

航続距離を延長した A321XLR によって、航空会社はより長距離で旅客量が比較的少ない路線において運航コストを抑えた単通路型機を運航することができます。現在、そのような路線の多くは、大型で非効率のワイドボディ機によって運航されています。航空会社はインドと欧州、中国とオーストラリアを結ぶような新たな路線を開拓することができ、

さらには大陸ヨーロッパとアメリカ大陸を結ぶノンストップの大西洋間飛行も可能です。A321XLR はまた、革新的客室「Airspace」を備え、最高レベルの空の旅と、すべてのクラスで長距離ワイドボディ機と同等の快適性を提供します。

A321XLR は A321LR およびその他の A320neo ファミリーと共通性を最大限確保して設計されています。必要最小限の改修によって、航続距離を延長しペイロードを増加します。改修点は、燃料搭載量を増加する新しいリア・センター・タンク（RCT）の装備、101 トンに増加した最大離陸重量に対応するランディングギア、現在の A321neo と同等の離陸性能とエンジン推力を保持するため主翼後縁フラップの最適化などです。新たに最適化した RCT は、オプションの追加タンクよりも燃料搭載量が多く、貨物室を占めるスペースが少ないため、長距離路線飛行における追加貨物や手荷物を運ぶためのスペースを提供します。

A320neo ファミリーは 2010 年のローンチ以来、100 社を超える顧客から 6,500 機以上の受注を獲得しているベストセラー単通路型機です。新世代のエンジンにシャークレット、その他改修によって従来の A320neo ファミリーよりも 2 桁の燃費削減を実現しています。

パリ航空ショーで 363 機の受注とコミットメントを獲得

6 月 17 日から 23 日まで開催されたパリ航空ショーで合計 363 機の受注を獲得しました。そのうち 149 機が確定受注で 214 機がコミットメントです。受注に加え、航空会社やリース会社が 352 機の既存の発注分を、主に A320 からより大型の A321neo や長距離型 A321XLR へ発注切り替えを行いました。これは、このクラスにおいてより長い航続距離を持つ航空機を顧客に提供するエアバスの戦略が功を奏したことを裏付けています。また、航空ショーの期間中、A220 は 85 機の受注（コミットメント含む）を獲得し、A330neo は 24 機の受注およびコミットメントを獲得しました。

今回の航空ショーの主役は A321XLR です。同機は世界で最も効率的で長い航続距離を持つ単通路型機で、このクラスを運航する航空会社にとって、より長い飛行距離と高いペイロードを必要とする市場に対応することができます。A321XLR は合計 48 機の確定受注、79 機のコミットメントを獲得。また、99 機が A321 から A321XLR へ発注切り替えが行われ、世界中の幅広い顧客から高い支持を証明しました。

ワイドボディ機では、A330neo がセブパシフィック航空やヴァージン アトランティック航空より受注を

受け、好調な需要を見えています。

また、エアバスのサポートサービス部門では、スカイワイズサービスなど新技術の活用によって整備や訓練、フライトオペレーション、アップグレードサービスの強化を実証しました。



パリ航空ショーで 363 機を受注

総引き渡し数 12,000 機に到達

エアバス機の総引き渡し数が 5 月 20 日に 12,000 機に到達しました。記念すべき 12,000 機目となったのはカナダのミラベルで製造されたデルタ航空の A220-100 です。

エアバスが最初の航空機である A300B2 をエールフランスに引き渡したのは 1974 年です。それから 36 年後の 2010 年に 6,000 機目の引き渡しを行いました。納入数は増加し続け、その 9 年後には倍の 12,000 機納入を達成しました。



納入 12,000 機目となったデルタ航空 A220-100

ANA の A380 が成田 - ホノルル線に就航

5月24日にANAのA380初号機が成田 - ホノルル線に就航しました。ANAのA380にはハワイ語でHONU（ホヌ）と呼ばれるウミガメを描いた特別塗装が施され、「FLYING HONU」と名づけられています。

ANAのA380は520席を装備します。2階席はファーストクラス8席、フルフラットシートのビジネスクラス56席、プレミアムエコノミー73席を備え、1階席にエコノミークラス383席を備えます。エコノミークラスの60席はカウチシートが導入されてい

ます。

また、初号機に続き6月18日にはハワイの海をイメージしたエメラルドグリーンの2号機が就航しました。2号機のFLYING HONUの機体にはにっこりと笑顔のウミガメが描かれています。



5月24日、ANAのA380初号機がホノルル線に就航



にっこり笑顔のFLYING HONUの2号機

50周年を記念しキャンペーン開始

エアバスは5月29日に最初の航空機開発から50周年を迎えたことを記念し、過去50年にわたる革新的な技術開発に関わる主要な出来事を紹介す

るキャンペーンを開始しました。

今から50年前の1969年5月29日に、パリ航空ショーで当時のフランスの運輸担当大臣とドイツの経済担当大臣が、史上初となる中距離向け2通路型双発ジェット旅客機、A300を共同開発する合意書に調印しました。

エアバスのギヨム・フォーリ最高経営責任者は次のように述べています。「エアバスの歴史は、大望と前進の物語であり、欧州の統合を象徴しています。私達は50年にわたり、

欧州全土から民間および防衛の航空ビジネスを結集させてきました。50年間、情熱と革新によって、初めてのものを数多く生み出し、産業界に変革をもたらし、社会が前進するために力を注ぎました。エアバスには想像を超えた人々の物語があり、過去の功績があり、何よりも、未来の物語があります」

5月29日から7月17日まで50周年記念キャンペーンとして、エアバスの歴史を新しい魅力的な物語として様々な形で発信しています。毎日一つずつストーリーをリリースし、民間航空機、ヘリコプター、宇宙、防衛、その他プログラム、取り組みなど、エアバスのビジネスに様々な面から光を当て紹介しています。

エアバスは50周年記念キャンペーンを実施することで未来を探求します。排気を削減する電気飛行や、デジタル化の促進、大都市における新しい空の移動方法など、現代の最も重要ないくつかの課題に挑戦するイノベーションを作り出し、航空宇宙業界の未来を形作る方法を追及していきます。



50周年を祝して、全エアバス機ファミリーによる編隊飛行を実施

A220 ファミリーの性能向上へ

エアバスはA220ファミリーの航続距離を増加することを発表しました。航続距離延長は2020年後半から可能になります。

A220の最大離陸重量は2,268キログラム増加します。最大離陸重量の増加により、最大航続距離がA220-300で3,350海里に、A220-100で3,400海里に増加します。従来より約450海里延長します。

A220の性能向上は既存の構造およびシステム上の余地および可能な燃料搭載量を利用することで実現します。航続距離延長により、航空会社はこれまで不可能であった新しい路線を飛行することができるように、西欧の主要都市と中東を結ぶ路線や東南アジアとオーストラリアを結ぶ路線で運航することが可能です。



航続距離を増加するA220ファミリー

JAL の A350 引き渡しセレモニーのハイライト



デリバリーセンターで駐機する JAL の A350-900



セレモニーでスピーチする JAL の植木義晴代表取締役会長



鶴の舞のようなダンスパフォーマンス



記念品の交換



機体前で記念撮影



フェリーフライトで離陸する A350-900

2019年5月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機 種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	15,176機	8,917機	8,511機
A300 / A310	816機	816機	306機
A330 / A340	2,108機	1,828機	1,670機
A350	893機	278機	278機
A380	290機	237機	234機
合計	19,283機	12,076機	10,999機